

ソーシャルサポートが精神的健康に与える影響についての地域間比較研究

山中 陽花

高齢化の進行に伴い後期高齢者が増加しているが、人々は高齢になるにつれて身体機能の衰えや他者との死別を経験し、精神的健康が低下する危険性があることが示唆されている。高齢者の精神的健康を維持するためには、公的なサービスの充実に加え、インフォーマルケアの拡充が必要と考えられており、ソーシャルサポートに着目することが重要である。しかし、地域によって人との繋がりやの程度は異なり、受けられるソーシャルサポートの量や質も異なってくると考えられることから、ソーシャルサポートと精神的健康との関連を検討する上では、社会関係の様相が異なる地域に着目することが重要であると考えられる。そこで本研究では、ソーシャルサポートが精神的健康に与える影響について地域間比較を行うことを目的とした。先行研究から、高齢になるほど身体機能が衰え自立が難しくなることや、都市の方が非都市より人間関係が希薄で、精神的健康は都市より非都市の方が高く維持されていることが推察される。よって、本研究ではどの年代においてもソーシャルサポートは都市部より非都市部の方が大きいという仮説(仮説1)、ソーシャルサポートが高齢者の精神的健康に与える影響は、年代が上がるにつれて地域差が見られ、非都市より都市の方が大きいという仮説(仮説2)を立て、検証した。

本研究では、SONIC 調査のデータを使用した。質問項目のうち、対象者の基本属性、経済状況、交流頻度、手段的自立得点、WHO5、ソーシャルサポートを分析に使用した。分析対象者は2010年から2012年の調査に参加していた、調査参加当時69歳から92歳の高齢者2780人であった。

まず、ソーシャルサポートの平均値を地域別に比較したところ、どの年代においても有意差が見られ、ソーシャルサポートは非都市の方が都市より高いということが分かった。

次に、ソーシャルサポートが精神的健康に与える影響を検討するため、年齢コホート別に階層的重回帰分析を行ったところ、90歳コホートのみにおいて、ソーシャルサポートと地域の交互作用項が有意となった。そこで単純傾斜の検定を行ったところ、都市と非都市どちらもソーシャルサポートの主効果が有意であった。また、都市と非都市どちらもソーシャルサポートが高くなるほど精神的健康が高くなるが、ソーシャルサポートが高齢者の精神的健康に与える影響は、非都市より都市の方が大きいという結果になった。よって、仮説1、2は支持されたと結論づけられた。90歳コホートの高齢者は、70歳、80歳コホートに比べて身体機能の低下に伴い自立が難しくなり、ソーシャルサポートの受領量が増加し、ソーシャルサポートが精神的健康に与える影響が大きくなることが推察されるため、90歳コホートのみで交互作用が見られたと考えられる。また、90歳コホートに関して、都市では非都市に比べて地域のつながりが薄く、ソーシャルサポートを受領しにくいと考えられ、精神的健康が低くなっている。しかし、ソーシャルサポートが高い場合では非都市より都市の方で精神的健康が高くなっていることから、都市の90歳コホート高齢者にとってソーシャルサポートが精神的健康に大きな影響を与えていることが推察される。

本研究の限界としては、SONIC 調査の参加者が一般的な高齢者に比べて精神的健康が高い可能性があり、調査に参加した対象に偏りがあった可能性があることが挙げられる。また、ソーシャルサポートをサポートの種類によって分類せず一括りにして分析したり、性差を考慮して分析を行うことができなかったことが挙げられる。今後より詳細な分析を行う上では、これらの点に着目して分析を行う必要があると考えられる。(臨床死生学・老年行動学)